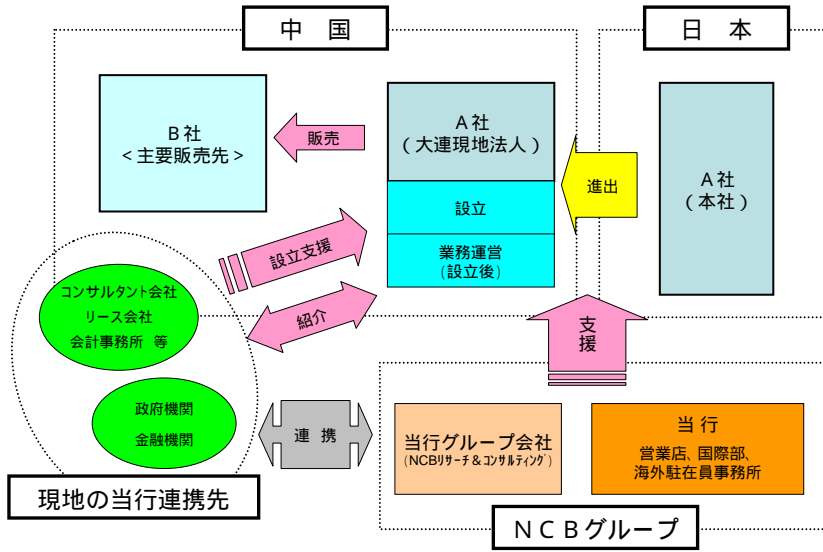


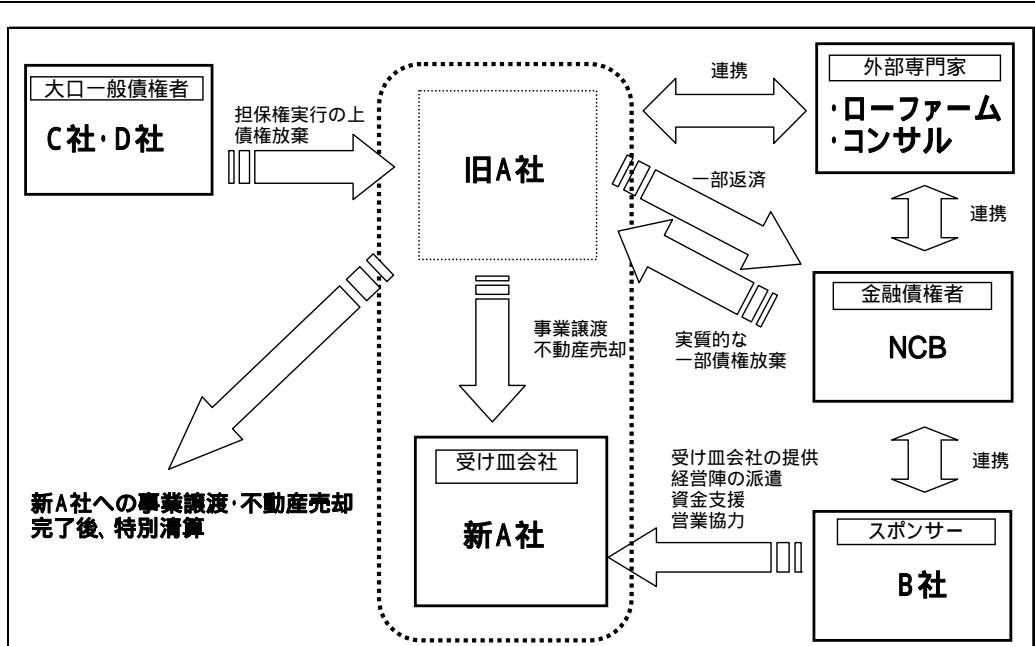
銀行名	西日本シティ銀行
タイトル	海外拠点及びグループ会社を活用した海外進出支援
取組み内容	<p>【当該取組みに至った経緯、解決を図る必要があった状況等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A社(工作機械部品メーカー)は、2012年に中国大連市に駐在員事務所を設立し、中国東北地域の工作機械メーカーの情報収集を行っていた。</li> <li>・ 2013年初め、A社の主要販売先であるB社(工作機械メーカー)が大連市に工場を設立するという情報を入手し、A社も大連市での工場設立準備に着手した。</li> <li>・ A社の中国での工場設立は江蘇省常州市に次いで2件目であったが、本件に携わるA社スタッフは中国進出に関する経験および現地の情報ネットワークが不足していた。</li> </ul> <p>【当該取組みの具体的内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当行海外拠点が現地のコンサル、日系大手リース会社、会計事務所等を利用して工場設立に伴う手続きをバックアップした。</li> <li>・ 設立予定地の政府機関(大連市対外経済貿易合作局) 当行が業務提携している現地の大手銀行への紹介を通じ、工場設立後の運営業務や現地販売先・調達先の紹介も含めて継続的にサポートした。</li> <li>・ 当行グループ会社の NCB リサーチ&amp;コンサルティングの海外ビジネス支援の専門部署「国際コンサル室」が、提携コンサルと協働で海外赴任者向け研修プログラムや海外勤務規定の整備についてアドバイスを行い、A社本社による海外拠点の管理機能強化に寄与した。</li> </ul> <p>【当該取組みの成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本においては当行および NCB リサーチ&amp;コンサルティング社、現地においては当行の海外拠点(上海駐在員事務所)、現地のコンサル、提携大手銀行、政府機関等の支援により、通常2年を要するといわれる現地での工場設立を約半年で設立することができた。</li> <li>・ A社は、短期間で工場設立によって、主要販売先B社の工場設立・稼動に伴って発生する工作機械部品の販売機会をうまく捉え、タイムリーに製品を納入することでB社の期待に応えることができた。</li> <li>・ A社は、主要販売先だけでなく、大連市を含む中国東北地域に集積する他の工作機械メーカーのニーズにも素早く対応できる態勢を構築できた。</li> </ul> <p style="text-align: center;">( 本事例は、平成25年度の地域密着型金融に関する取組みにおいて、当行が地域企業の成長段階において積極的な海外進出支援を行った点を評価され、福岡財務支局より顕彰されました。 )</p>

### 海外拠点及びグループ会社を活用した海外進出支援

当行グループが連携し、海外現地法人の工場設立だけでなく、日本本社の適切な現地法人管理体制の構築までトータルにサポートした事例

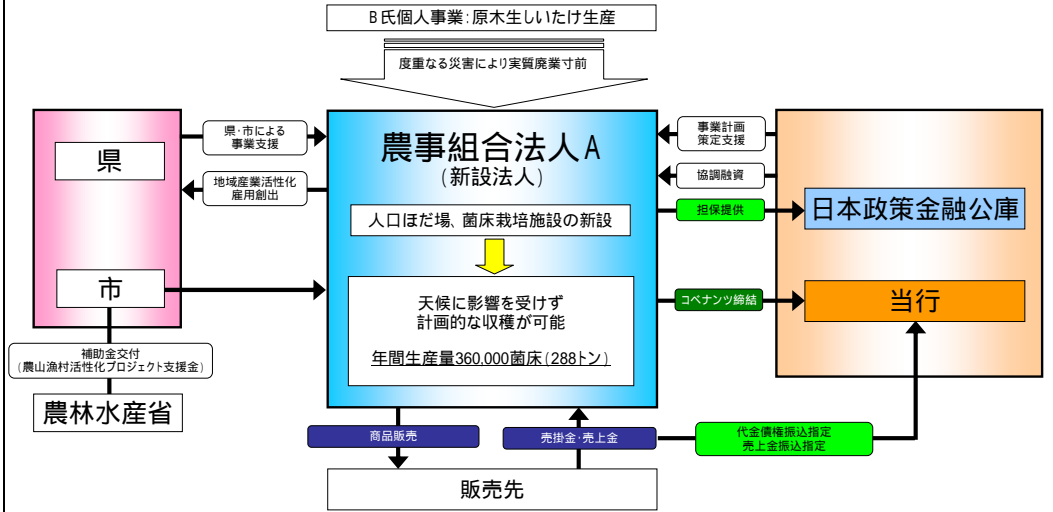


銀行名	西日本シティ銀行
タイトル	特別清算を活用したスポンサースキームによるお取引先の事業再生支援
取組み内容	<p><b>【動機（経緯）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海産物加工品の製造業を営んでいたA社は、海外に生産拠点を新設したものの、国内産を志向する消費者に受け入れられず撤退した。</li> <li>・ 多額の損失が発生したことに加え、国内市場の縮小による業界内競合の激化、原材料価格の高騰等が続いたことにより過剰債務・大幅債務超過状態に陥り、事業継続の為に、抜本的な再建スキームの構築が不可欠な状況となっていた。</li> </ul> <p><b>【取組み内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A社と当行は、A社の主要取引先である業界大手企業B社を交え、弁護士、大手コンサル等外部専門家を活用して抜本的な再建スキームを検討した結果、B社によるスポンサー支援の下での第二会社方式による事業譲渡・特別清算を行うこととした。</li> <li>・ 具体的には、B社が受け皿となる新会社を用意し、経営陣を派遣。旧A社は新会社に本社工場等不動産売却・事業譲渡を行って負債の返済に充当。残債は特別清算により処理する形式を採用した。</li> <li>・ 弁護士を介して金融債権者及び大口一般債権者への説明・交渉を実施し、スキームについて大筋の合意が得られたことから、新会社への事業譲渡、旧会社の特別清算といった同時並行的に進めなければならない手続き及びその過程で発生する様々な問題について、外部専門家と十分な連携を図りながら処理・解決した。</li> </ul> <p><b>【お取引先にとっての効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取引金融機関、大口債権者による実質的な債権放棄を受け、債務超過の圧縮・既存債務の返済軽減が行われたこと、業界大手企業B社のスポンサー就任により企業信用力の向上、営業体制・ガバナンスの強化が図られたことから、今後、B社グループの一社として安定した事業継続が見込まれる。</li> </ul>



銀行名	西日本シティ銀行
タイトル	農林水産省の補助金を活用した創業支援
取組み内容	<p><b>【動機（経緯）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農事組合法人Aの代表理事であるB氏は、過去30年にわたり個人で原木生しいたけを生産していたが、度重なる豪雨や降灰等の自然災害により実質廃業寸前となっていた。</li> <li>・しかしながら、地域産業の復興・雇用創出を図るためには事業の再開が必要と考え、新たに農事組合法人を立ち上げ、農林水産省の補助金事業（農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業）を活用し、天候の影響を受けず、計画的な収穫が可能な大型菌床栽培施設を新設するに至った。</li> <li>・ただし、事業を開始するにあたり、補助金のみでは不足することから、金融機関への融資相談を行っていた。</li> </ul> <p><b>【取組み内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当社のビジネスモデルを分析。生製品の9割以上が商社を通じて大手流通業者のPB商品として販売される計画となっており、販路が十分確保されていることが判明した。</li> <li>・事業計画を策定する上で、日本政策金融公庫と連携。売上高10%のストレスをかけた場合でも借入金の償還が可能であることを確認した。</li> <li>・補助金事業の概要を確認。取得設備への抵当権設定が不可能であることが判明するが、代金債権振込指定、コベナンツ締結、生産施設に係る損害保険に対する質権設定、売上金振込指定を行うことで、保全強化・管理徹底が図られると判断した。</li> <li>・県・市の支援も取り付けた地域活性化に資する事業であり、日本政策金融公庫と協調の上、融資を実行した。</li> </ul> <p><b>【取組みの効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天候の影響を受けず、計画的な収穫が可能な菌床栽培施設の建設により、年間生産量360,000菌床（288トン）を見込む（市内第2位の生産規模）。</li> <li>・新たな農業法人を立ち上げることで、衰退していた地場しいたけ産業の活性化と雇用創出が見込まれ、地域社会に対する貢献度が高まる。</li> <li>・コベナンツを締結することで、定期的に当社に対するモニタリングを実施し、適宜経営に関するアドバイスを提供することができる。</li> </ul>

# 農林水産省の補助金事業を活用した創業支援の取組み



銀行名	西日本シティ銀行
タイトル	ファンドを活用した第2創業支援
取組み内容	<p><b>【動機（経緯）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A社は冷凍魚介類の開発・製造・輸入・販売を営んでいる。</li> <li>・ 当社は主力商品の製造過程で発生する大量の残渣を有料で廃棄していた。</li> <li>・ 今後の主力事業として、残渣の有効活用が行える養殖事業を検討し、付加価値のある商品化に成功。新商品は、品質・生産効率での強みなどから、大手流通・小売業からの引き合いが多く、事業の急拡大が見込める状況であった。</li> <li>・ 当該新事業を拡大させるためには、事業計画の策定及び大規模な設備投資が必要であったため、当行と農林漁業成長産業化支援機構とが共同で設立した『NCB九州6次化応援ファンド』を活用した事業支援を提案。</li> <li>・ 当行提案が採用となったため、事業スキーム・事業計画の策定支援・検証や事業リスクの分析等を行い、新事業を行う新設会社B社への出資を決定した。</li> </ul> <p><b>【お取引先にとっての効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ B社は事業計画の精緻化が図れたとともに、ファンドからの出資と当行からの融資により設備資金の円滑な調達が行えたことにより、今後の安定的な事業展開が見込めることとなった。</li> </ul> <pre> graph TD     A[A社] -- 出資 --&gt; B[新設子会社 B社]     A -- 販路提供 新しい技術の提供 --&gt; B     B -- ファンド活用の提案 --&gt; C[当行]     C -- 事業スキーム・ 計画の策定支援 --&gt; B     C -- 出資 --&gt; D[NCB九州6次化 応援ファンド]     D -- 経営支援 --&gt; B     D -- 出資 --&gt; B     E[農林漁業成長産業化 支援機構] -- 出資 --&gt; D   </pre>

銀行名	西日本シティ銀行
-----	----------

タイトル	後継者へのスムーズな経営承継のための自社株対策支援
------	---------------------------

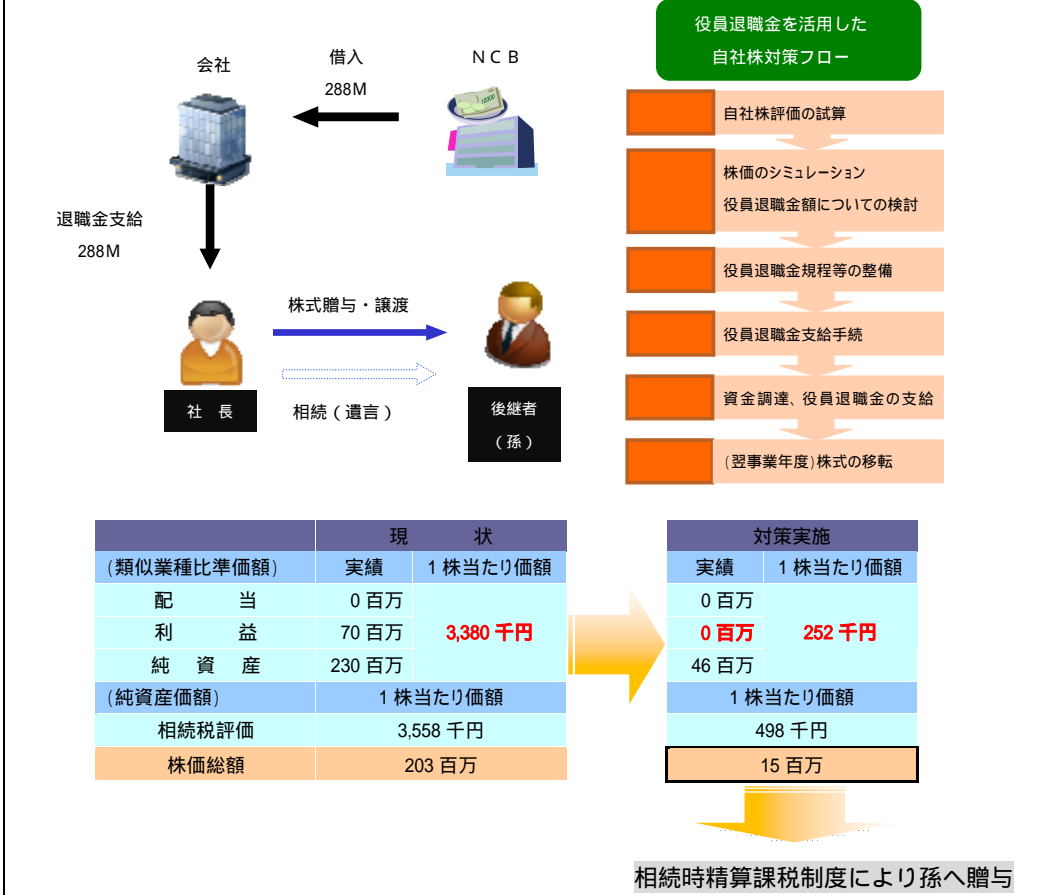
**【動機（経緯）】**

- ・顧客は飲食業を営む老舗店。年商3億円、純資産2億円。
- ・社長は75歳と高齢。今後の事業承継については、孫を後継者として考えており、既に関連会社の社長として会社経営を学び始めている。
- ・当行とのリレーションを構築する中で事業承継について以下の情報をキャッチ。  
 自社株は社長が100%所有しており、後継者への移転が進んでいない。  
 毎期利益計上し純資産も増加しており、自社株評価が高額となっている。  
 社長の個人資産も数億円あることから、将来の相続税が心配である。

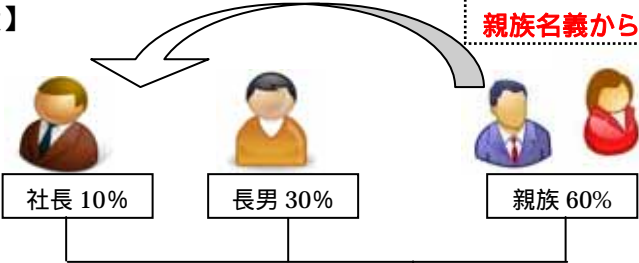
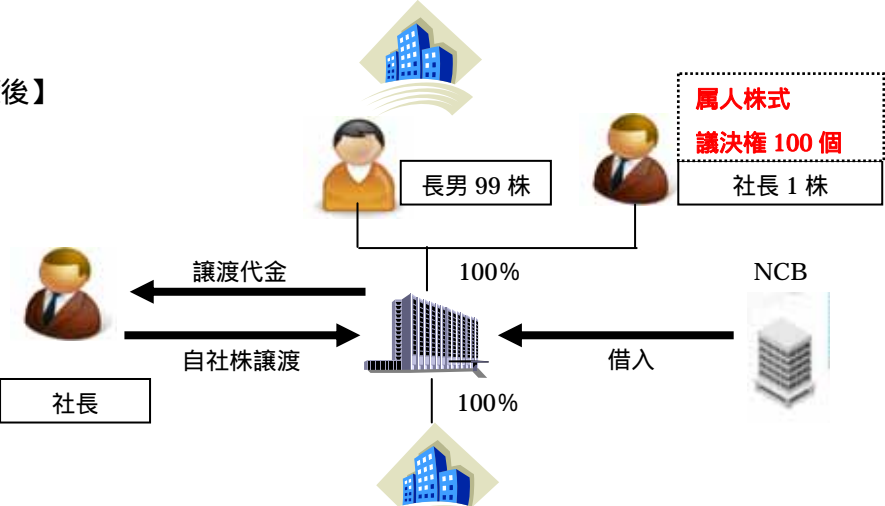
**【取組み内容・お取引先にとっての効果】**

- ・当行プライベートバンカーと当行顧問税理士による協議のうえ、以下の自社株移転スキームを提案・実行することとなった。  
 利益圧縮(赤字計上)による自社株評価額の引き下げ。  
 現社長への役員勇退金(288百万円)支給 赤字計上 自社株評価額引き下げ(200百万円 15百万円)。  
 同時に将来の相続税納税資金を確保。  
 翌年に「相続時精算課税制度(25百万円まで無税で贈与)」を活用し、後継者である孫へ15百万円まで評価を引き下げた社長持株を贈与。  
 将来の相続時も贈与時の低い評価額で相続財産を計算できる。

取組み内容





銀行名	西日本シティ銀行
タイトル	名義株の整理と後継者への株式移転対策支援
取組み内容	<p><b>【動機（経緯）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・顧客は医薬品小売業を営む。年商5千万円、純資産2億円。</li> <li>・社長は80歳と高齢。事業後継者は長男。</li> <li>・自社株、不動産を含む個人資産が多額で、将来の相続税支払を懸念。</li> <li>・当行にて相続税の概算試算を行う中で、株主名簿により、株主が10人の親族に分散しているとともに、その全てが「名義株」であることが判明。</li> </ul> <p><b>【取組み内容・お取引先にとっての効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「名義株の整理」と「後継者への株式移転」について以下を提案・実行に至った。</li> </ul> <p><b>名義株の整理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名義株主同意のもと真の株主である社長へ株主名義を変更。この時点で社長持株70%、長男持株30%となる。</li> <li>・今後相続で分散される名義株主の議決権行使による経営リスクを回避。</li> </ul> <p><b>持株会社を活用した後継者への株式移転</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後継者個人での買取が困難であること、今後の持株評価の上昇を抑える（含み益に対する42%の課税控除）ため、後継者が出資した「持株会社」により買取る。</li> <li>・後継者は持株会社を通じて同社の全株式を保有できる。</li> </ul> <p><b>現社長の経営権の確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・株式は後継者へ移転するものの、当面現社長の経営権を確保するため社長在任中、1株につき100個に議決権を有する「属人株式」を導入。</li> </ul> <p><b>【現状】</b></p>  <p>~名義株の整理~ 親族名義から社長名義へ</p> <p><b>【対策後】</b></p>  <p>属人株式 議決権100個 社長1株</p> <p>譲渡代金 100% 借入 100% NCB</p> <p>自社株譲渡 100%</p> <p>社長</p> <p>長男 99株 社長 1株</p>

銀行名	西日本シティ銀行
タイトル	「キッズ・サマー・キャンプ～お金のがっこう～」の開催
取組み内容	<p><b>【動機（経緯）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが楽しみながら銀行の仕組みやお金の大切さについて学び、社会のことや将来のことを考えるきっかけとしてもらうために実施した。</li> </ul> <p><b>【取組み内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金融経済教育の取組みの一環として、夏休みの1日を利用して、県内の小学生およびその保護者29組に集まっていただき、以下のプログラムで実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- クイズ形式学習 お金の役割・銀行の役割についてのクイズ形式学習 名刺交換、札勘体験など</li> <li>- 銀行を探検 銀行窓口、貸金庫室、コールセンター見学など</li> <li>- お金を体感 1億円や硬貨の重さ体感、外国コイン紹介</li> <li>- 窓口体験 女の子はテラー（窓口） 男の子はお客さま体験</li> </ul> </li> </ul> <p><b>【取組みの効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お金や銀行の役割について学習した後、名刺交換の仕方、札勘を体験したり、1億円や硬貨の重さ体感、銀行の施設見学や窓口体験などを通して、銀行の仕事やお金の大切さについて学んでいただき、参加者、保護者からも非常に好評をいただいている。</li> </ul>



銀行名	西日本シティ銀行
タイトル	全国高校生金融経済クイズ選手権 「エコノミクス甲子園」福岡大会の開催
取組み内容	<p><b>【動機（経緯）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これから社会にはばたいていく高校生が、楽しみながら金融経済のしくみを学び、社会生活に役立つ実践的な金融知力を身につけてもらうために当行とグループ証券会社である西日本シティTT証券との共催で実施した。</li> </ul> <p><b>【取組み内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福岡県内の高校から2人1組で14チーム（28人）の高校生が参加し、筆記問題や早押しクイズに挑戦した。</li> </ul> <p><b>【取組みの効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今回で8回目の開催となるが、毎回、参加者からは「金融経済についてより深く知ることが出来た」、「次回も参加したい」など好評をいただいている。</li> </ul> <div data-bbox="475 1055 1011 1406" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="475 1447 1018 1805" data-label="Image"> </div>

銀行名	西日本シティ銀行
タイトル	経済講演会の開催
取組み内容	<p><b>【動機（経緯）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元の皆さまに最新の金融、経済情報をタイムリーにお届けするため、当行トップによる「経済講演会」を平成 20 年 1 月より開催している。</li> </ul> <p><b>【取組み内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「2014 年 経済・金融の見通し～世界、日本、そして九州+アジア～」の演題で「経済講演会」を開催した。</li> <li>・ 講演では国際的な視点から、米国、中国、ユーロ経済、また、日本の経済政策について詳しく説明した。それらをベースにした地元九州経済の見通しやさらに、アジアと九州の歴史的、文化的な関係性についても解説した。</li> </ul> <p><b>【取組みの効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 20 年 1 月より開催しており、地元企業や地域の皆さまにも非常に好評をいただいている。</li> <li>・ 当日は九州一円、また広島など遠方から約 550 名が参加され、参加の方は、メモを取るなど、熱心に聴講された。</li> </ul> <div data-bbox="440 1200 983 1559" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="432 1585 992 1953" data-label="Image"> </div>

銀行名	西日本シティ銀行
タイトル	全店一斉清掃ボランティア活動「地域のNCBクリーンデー」の開催
取組み内容	<p><b>【動機（経緯）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 21 年より地域金融機関として地域の環境美化に協力するため、全店一斉清掃ボランティア活動「地域のNCBクリーンデー」を毎年実施している。</li> </ul> <p><b>【取組み内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支店などの職場単位で店周りや地元商店街、近くの公園などを2日間にわたり清掃した。また、本店近くで歴史的なお寺のある地区では、地域の皆さまと共同で清掃した。</li> </ul> <p><b>【取組みの効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の皆さまと共同で清掃活動を実施するなど、地域の皆さまにも当行の活動が定着している。</li> <li>本支店一体となり一斉に実施することで地域貢献に対する行員の意識づけを図ることができ、環境美化に貢献する活動として定着している。</li> </ul> <div data-bbox="440 1115 979 1516" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="440 1536 991 1899" data-label="Image"> </div>

銀行名	西日本シティ銀行
タイトル	地域の歴史や文化を取り上げて、わかりやすく紹介する「博多に強くなるろう」「北九州に強くなるろう」、「九州流」の発行
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意外に知らない地元の歴史やゆかりの人物、文化などをご紹介し、地域の活性化に貢献するために、2種類の広報誌を発行している。</li> </ul> <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「博多に強くなるろう」「北九州に強くなるろう」は、地元の身近な話題やゆかりの人物等を取り上げてわかりやすく紹介する刊行物として、昭和54年に創刊し、現在、通算97号を発行している。刊行誌は本店・支店の窓口に置いているほか、当行ウェブサイトに全号掲載している。</li> <li>・ 「九州流」は九州の歴史・文化・アジアとの交流をテーマに、国際レベルの視点から地域の情報を掘り起こして発信する「ふるさと発見誌」として平成21年に創刊し、現在、通算3号を発行している。</li> </ul> <p>【取組みの効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元の身近な歴史・文化をわかりやすく学ぶことができ、地域の皆さまからも非常に好評をいただいております。バックナンバーの問い合わせなど多くの声が寄せられています。</li> </ul>



銀行名	西日本シティ銀行
タイトル	お昼休みのクラシック演奏会「プロムナードコンサート」の実施
取組み内容	<p><b>【動機（経緯）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公益財団法人福岡文化財団と共催で、当行本店のある博多駅周辺にお勤めの方などにお昼休みの時間を楽しんでいただくため、クラシック演奏会を毎月1回開催している。</li> </ul> <p><b>【取組み内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本店のエントランスホールで毎月1回、クラシック演奏会「プロムナードコンサート」を無料で開催している。毎年8月は映画音楽などクラシック以外の曲も演奏し、12月はユニセフチャリティ・クリスマスコンサートを開催している。</li> </ul> <p><b>【取組みの効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昭和61年より開始し、平成26年6月で342回を迎え、お昼休みのコンサートとして地域の方々に親しまれ、好評をいただいている。</li> </ul> 